

農福連携等マッチング支援事業全体会議

成果報告資料（JA湘南管轄地域）

令和8（2026）年3月26日（木）

特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

理事長

坂田 美保子

プロジェクトマネージャー

関谷 育雄

1 令和7年度 成果報告

○お試しノウフク実施件数 8件

月日	農家名	施設名
5/14	<input type="checkbox"/> 関谷	「レインツリー伊勢原」
6/6	<input type="checkbox"/> 大森	「レインツリー伊勢原」
6/11	<input type="checkbox"/> 笹尾	「レインツリー伊勢原」
10/3	<input type="checkbox"/> 田中	「キルクももはま」
12/24	<input type="checkbox"/> 平田	「グランズ平塚」
1/13	<input type="checkbox"/> 関谷和彦	「キルクももはま」 ※農地賃借
1/28	<input type="checkbox"/> 風間達也	「レインツリー伊勢原」
2/2	<input type="checkbox"/> 風間達也	「Gサポート湘南」

○マッチング件数 6件

月日	農家名	施設名
5/28	<input type="checkbox"/> 関谷	「レインツリー伊勢原」
6/6	<input type="checkbox"/> 大森	「レインツリー伊勢原」
10/10	<input type="checkbox"/> 田中	「キルクももはま」
1/13	<input type="checkbox"/> 関谷和彦	「キルクももはま」 ※農地賃借
2/12	<input type="checkbox"/> 風間達也	「レインツリー伊勢原」
2/?	<input type="checkbox"/> 風間達也	「Gサポート湘南」

2 お試しノウフク実施記録①

①期日 5月14日(水)

事業所 「レインツリー伊勢原」

農家 「関谷農園」

参加者 利用者 4名 事業所スタッフ1名

作業内容 ドライフラワー用植物の栽培準備



2 お試しノウフク実施記録②

②期日 6月6日(金)

事業所 「レインツリー伊勢原」

農家 「大森農園」

参加者 利用者 6名 事業所スタッフ2名

作業内容 玉ねぎカット、袋詰め



2 お試しノウフク実施記録③

- ③期日 6月11日(水)
事業所 「レインツリー伊勢原」
農家 「笹尾農園」
参加者 利用者 6名 事業所スタッフ2名
作業内容 ニンジンのヒゲ取り・袋詰め



※計量ミスやニンジンの傷付け、作業量に対しての工賃の折り合いがつかず、マッチングには至らなかった。

2 お試しノウフク実施記録④

- ④期日 10月 3日 (金)
事業所 「キルクももはま」
農家 「田中農園」
参加者 利用者2名 事業所スタッフ1名
作業内容 キュウリの摘心



2 お試しノウフク実施記録④

- ④期日 12月24日(水)
事業所 「グランス平塚」
農家 「平田農園」
参加者 JA職員1名 事業所スタッフ1名
作業内容 イチゴの調整作業



2 お試しノウフク実施記録④

④期日 2026年1月13日（火）

事業所 「キルクももはま」

農家 「関谷和彦農家」

参加者 利用者1名 事業所スタッフ1名

作業内容 農地賃借による野菜栽培

※野菜の直売や利用者さんの野菜の調整作業のリハーサル場として活用予定。



2 お試しノウフク実施記録④

- ④期日 2026年1月28日(水)
事業所 「レインツリー伊勢原」
農家 「風間農園」
参加者 利用者8名 事業所スタッフ3名
作業内容 サトイモの調整作業



2 お試しノウフク実施記録④

④期日 2026年2月26日(木)

事業所 「Gサポート湘南」

農家 「風間農園」

参加者 利用者 2名 事業所スタッフ1名

作業内容 サトイモの収穫作業



3 新規就労者数

・「レインツリー伊勢原」と「大森農家」※施設内

作業内容

タマネギカット
タマネギ袋詰め
エダマメ鞘取り
サツマイモの土落とし
長ネギの皮むき
サトイモの根取り

日数及び人数、のべ人数

6月	11日	×6名	=66名
8月	5日	×6名	=30名
9月	16日	×6名	=96名
10月	7日	×6名	=42名
11月	7日	×6名	=42名
12月	6日	×6名	=36名
1月	2日	×6名	=12名
2月	2日	×6名	=12名

・「レインツリー伊勢原」と「関谷農園」※施設外

作業内容

ドライフラワー用植物の栽培に向けての
耕作いろいろ

6月	4日	×4名	=16名
7月	4日	×4名	=16名
8月	4日	×4名	=16名
9月	4日	×4名	=16名
10月	4日	×4名	=16名
11月	4日	×4名	=16名
12月	2日	×4名	=8名
1月	2日	×4名	=8名
2月	2日	×4名	=8名

合計 220名

3 新規就労者数

・「キルクももはま」と「田中農家」※施設外

作業内容

コマツナの播種、肥料撒き
キュウリの摘心

日数及び人数、のべ人数

11月	8日×3名 = 24名
12月	8日×3名 = 24名
1月	4日×2名 = 8名
2月	4日×2名 = 8名

・「レインツリー伊勢原」と「風間農園」※施設外

作業内容

サトイモのけば取り、サイズの仕分け

2月	12日×6名 = 72名
----	--------------

3 新規就労者数

- ・「キルクももはま」と「関谷和彦農園」※施設外

作業内容
野菜の栽培

日数及び人数、のべ人数

2月 4日×1名=4名

- ・「Gサポート湘南」と「風間農園」※施設内

作業内容
サトイモを弁当食材として提供



2月 1日×12名=12名

合計608名

4 今後の予定

お試しノウフク⇒マッチング成立へ

□平田農家(平塚)と「グランズ平塚」

作業内容 イチゴ栽培の手伝他

□平塚市内農家(平塚)と「グランズ平塚」

作業内容

平塚市龍城ヶ丘プール跡地開発「ひらつかシーテラス」へグランズ平塚が出店するにあたっての農産物提供の連携

□田中農家と「グランズ平塚」

作業内容

キュウリの収穫、調整作業

□川口農家(平塚)と「市内福祉事業所」

作業内容

除草作業

5 その他（啓蒙活動）

・農業新聞で、大森農家の農福連携の取組みが紹介されました。（8/2）

・JA中央研究会にて県共生推進本部室職員と共に農福連携について講演(8/20)

・JA湘南地域TAC職員に向けて農福連携について講演(9/11)

・お試しノウフク開催チラシを作成・配布（9月）

・農福連携ののぼり旗を追加作成し各農家・施設に設置

・平塚市の社会実験「平塚駅周辺地区将来構想」に基づいた道路空間の整備で、農福マルシェを開催（10/19）

・湘南NPOサポートセンターまつりでライオンズクラブも協力して、農福マルシェ実施（11/23）

・農福連携推進会議実施（リアル・オンラインハイブリッド形式）（12/26）

・神奈川セルプセンターの農福セミナーへのビデオ出演（1/16）

・農福連携推進会議実施（オンライン形式）（2/23）



キルクももはまの事例報告



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
玉ねぎ	らっきょう	枝豆	きゅうり	空芯菜	くわいり	みかん	長ねぎ	スイトピー	ブロッコリー		
				ブルーベリー	柿	大根					小松菜
				きくらげ	栗	里芋					ゆず

令和7年度 神奈川県 農福連携セミナー

講演内容	講演者
農福連携の概要について	障害福祉課 社会参加推進グループ
6次産業化の概要、 支援制度等について	農政課 ブランド推進グループ職員
農福連携取組事例	キルクももはま 椎野 淳子



6 これまでの振り返り

- 関係者のネットワークが深まり、LINEグループ（農福連携推進会議）を立ち上げ、随時情報交換ができている。そのため、お試しノウフクの依頼や農福マルシェなどへの参入が実施し易くなった。
- JA湘南本部職員の働きかけで、TAC職員の意識が高まりつつあり、農家からの依頼が増えている。
- 農家、福祉事業所共に核となる人材ができ多方面で活躍されているので、農福連携の広まりに貢献できている。
例 JAやタウンニュースなどの広報誌や農業新聞などで農福連携をアピール
- 農福連携ののぼり旗を追加作成し各農家・施設に設置したため、より多くの方々に関心を持ってもらえるようになってきた。ミニのぼり旗も作成中です！

- ▼当面マッチングも落ち着いてきて成果も出てきている。
今後は新規農家の開拓を進めつつ、現行の福祉事業所の稼働日・時間増などお互いにメリットになるような方策を模索したい。
- ▼現在、農家さんの依頼に対応できる福祉事業所が限定されている。福祉事業所が抱えている課題が要因となっていることもあり、その現状を理解するとともに障がい福祉課との相談・協力体制をつくっていききたい。
- ▼関係各位（JA湘南、福祉事業所等、行政）と協力し、農福のメリットを活かすよう情報発信を強化し新規開拓を促進したい。
- ▼農福連携の推進に向けて、農家・福祉事業所の協力を得て直売・農福マルシェを進めている。
農・福どちらにとってもメリットがあるため、波及効果を期待したい。
- ▼福祉事業所の利用者の入れ替わりが多いので、農作業の適性を見極めるのが課題となっている。

農福連携等マッチング支援事業 フォローアップ状況(JA湘南管轄地域)

令和8（2026）年3月26日（木）

特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

理事長

坂田 美保子

プロジェクトマネージャー

関谷 育雄

1 これまでのマッチング状況



○農家 19件

湘南小巻ファーム・柏木農園・草川農園・(株)いかす農園・岩田農園・
関谷育雄農園・farm330・小宮農園・山田農園・大森農園・石井果樹園・
和田果樹園・桐原農園・海老澤農園・秋山雄一農園・秋山修農園・
田中農園・関谷和彦農園・風間達也農園

○福祉事業所 10件

みんなの家ココ・みんなの家ミミ・キルクももはま・スタジオクーカ
プラーナ湘南・グランス平塚・KUOKEA(クオケア)・かたつむりの家
レインツリー伊勢原・Gサポート湘南

2 マッチングの組み合わせ(1)

- 1 みんなの家ココと小巻農園 (停止) 施設外 2 年間 ※工賃の齟齬
- 2 みんなの家ココと柏木農園 (停止) 施設外 2 年間 ※柏木氏が海外研修で渡航
- 3 みんなの家ミミとfarm330 (停止) 1 年間 ※作業内容の不一致
- 4 みんなの家ミミと石井果樹園 (継続) R5～ ※作業が単純でし易い
- 5 みんなの家ミミと和田果樹園 (継続) R5～ ※作業が単純でし易い
- 6 キルクももはまと岩田農園 (継続) R3～ ※やりがいがある。利用者に合わせた作業内容がある。
- 7 キルクももはまと関谷農園 (継続) R3～ ※直売に関われる。
- 8 キルクももはまと山田農園 (継続) R3～ ※やりがいがある。
- 9 キルクももはまと草川農園 (継続) R5～ ※共販出荷しなくなり事業所の直売を活用している
- 10 キルクももはまと小宮農園 (継続) 施設外 R 6 ～ ※やりがいがある。
- 11 キルクももはまとfarm330 (継続) R 6 ～ ※やりがいがある。
- 12 キルクももはまと海老澤農園 (継続) R 6 ～ ※直売に関われる。
- 13 キルクももはまと秋山雄一農園 (継続) R 6 ～ ※直売に関われる。
- 14 キルクももはまと田中農園 (継続) R7～
- 15 スタジオクーカといかす農園 (継続) 施設外 R4～ ※作業が単純でし易い
- 16 スタジオクーカと岩田農園 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる
- 17 スタジオクーカと関谷農園 (継続) R4～ ※マルシェの仕事に関われる。畑仕事に関われる
- 18 スタジオクーカとfarm330 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる
- 19 スタジオクーカと海老澤農園 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる
- 20 スタジオクーカと秋山雄一農園 (継続) R6～ ※マルシェの仕事に関われる

2 マッチングの組み合わせ(2)

- 21 プラナーナ湘南とfarm330 (継続) R4～ ※仕事のお手伝いができる。
- 22 グランズ平塚と大森農園 (継続) 施設外R4～ ※工賃がよく、いろいろな仕事ができる。
- 23 グランズ平塚と関谷農園 (継続) 施設外R4～ ※畑で農作物を栽培できる。
- 24 KUOKEA (クオケア) と大森農園 (停止) 施設外1年間 ※スタッフ不足、事業所の体制変更
- 25 かたつむりの家と桐原農園 (継続) R5～ ※重度の利用者でも作業に関われる。作業期限が厳しくないのが助かる。
- 26 レインツリー伊勢原と大森農園 (継続) R7～ ※工賃がよく工賃がよく、いろいろな仕事ができる。
- 27 レインツリー伊勢原と関谷育雄農園 (継続) R7～ ※畑で農作物を栽培できる。
- 28 キルクももはまと田中農園 (継続) R7～ ※継続しているが、作業内容がやや複雑なのが課題である
- 29 キルクももはまと関谷和彦農園 (継続) 施設外R7～ ※まだマッチングしたばかりであるが、野菜作りや作業訓練場として使うことを楽しみにしているとのこと。
- 30 レインツリー伊勢原と風間農園(継続)R7～ ※マッチングしたばかりであるが、すでに作業手順がわかりやすいので効率よく作業ができているとのこと。
- 31 Gサポート湘南と風間農園 (継続)R7～ ※マッチングしたばかりであるので、コメントなし。

※お試しノウフクは、上記の件数+約14件

継続率 約87%

3 まとめ

- 1 お試しノウフク(体験作業)を通してマッチングに至る確率は約69%であった。
農家と福祉事業所の距離は、長くて片道20分程度と考えている。それ以上となると、農家の輸送コストや施設外の作業時間に影響してくると考える。
- 2 マッチングの継続率は約87%であった。
その理由は、多岐にわたっており、比べることはできないが、マッチングに至る話し合いの中で、農家側は、利用者に対して無理な作業内容を求めないこと。福祉事業所側は、できる限り利用者の希望を聞いて無理な要求をしていないことがあげられる。また、お試しノウフク(体験作業)の段階でそれらが予想ができ、無理なマッチングになっていないことがあげられる。
- 3 施設外作業の利用率は約22%程度で、施設内の作業が大半を占める。
福祉事業所の現状としてスタッフ不足や利用者の希望がないなどが考えられる。
- 4 利用者さんは、事業所内で事前に希望をとっているため、作業には多くの方がまじめに取り組む。
利用者さんの適性に合った作業を福祉事業所のスタッフさんは常に考えて作業を組んでくれている。
- 5 直売やマルシェ形式の農福連携が増えてきた。
福祉事業所にとっては、直売所として事業所の新たな活用の仕方が提案できた。マルシェも福祉事業所の定期的なイベントで野菜が販売されお客様にとっても好評である。また、農家にとっては、新たな販路の開拓となり固定客もできるため数量の把握もしやすい。さらに、袋詰めなどを福祉事業所に頼めるところもあるので農家の負担も減った。